

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 臨床病期 および 食道癌に対する術前化学療法後根治切除症例における周術期好中球リンパ球比（NLR）と長期成績の検討

研究の目的

日本においては臨床病期 および の進行食道癌に対しては術前化学療法後に手術を行うことが標準治療として確立されています。食道癌は集学的治療の向上により生存率は改善してきていますが、いまだ予後不良の疾患であり、予後の改善のためには予後を予測する因子となりうるバイオマーカーの探索が必要です。好中球リンパ球比（Neutrophil-lymphocyte ratio: NLR）は全身性炎症の指標であり、種々の固形腫瘍において高 NLR は予後不良因子と報告されていますが、食道癌においては NLR と予後との関係性は明らかではありません。そこで、本研究では術前化学療法後に手術を行った臨床病期 および の食道癌の術前および術後の NLR と予後との関係を明らかにすることを目的としています。

研究実施期間： 実施許可日 ～ 2027 年 1 月 1 日

対象となる方： 2009 年 1 月 1 日から 2019 年 9 月 30 日までの期間内に、当院消化器外科において、臨床病期 および の食道癌に対して術前化学療法施行後にリンパ節郭清を伴う根治手術を行った方。

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院の診療録より、手術前の治療内容、手術所見、術後経過、血液検査結果、病理結果、手術後の治療内容、再発の有無、生存期間などについて、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、術前および術後の NLR の値と生存率について、統計解析的手法を用いて比較することで、食道癌において NLR が予後を予測する因子となり得るかを明らかにしたいと思います。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除

外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	医学研究科消化器外科学講座 室谷隆裕 電話番号： 0172-39-5079 メールアドレス： muroyat@hirosaki-u.ac.jp
-------	---